

# 第2次南陽市食育・地産地消推進計画概要（案）

## 1. 計画策定の趣旨

本市では、市民の健やかな食生活と地域農業の振興を一体的に推進してきました。しかし、近年は人口減少・少子高齢化に加え、多忙なライフスタイルによる食生活の乱れ、気候変動による農産物への影響など、食をめぐる環境は大きな転換期を迎えています。

これらの情勢を踏まえ、南陽の豊かな恵みを次世代へ引き継ぎ、誰もが健やかに暮らせる「持続可能な食育・地産地消モデル」を構築するため、本計画を策定します。

## 2. 計画の位置づけ・期間

### 位置づけ

食育基本法及び地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律に基づく計画であり、「第6次南陽市総合計画」を最上位計画とする部門別計画です。

### 計画期間

令和8年度(2026年度)から令和17年度(2035年度)まで

## 3. 「食」をめぐる現状と課題

- ・単独世帯26%増と核家族化による「食の孤立」の深刻化
- ・健康寿命との差(最大11年)と、増加するメタボ該当者(18.2%)
- ・ライフスタイルの多様化による中学生の朝食欠食率悪化(13.2%)
- ・記録的高温による果樹の品質低下と農業担い手の高齢化
- ・継承意欲8割も「手間・時間」が壁となる郷土料理の消失危機
- ・福祉施設・飲食店における地場産物利用の伸び悩みとコスト課題
- ・デジタル活用やSNSによる若い世代への啓発・情報発信の遅れ

## 6. 成果指標及び数値目標（現状）→（数値目標）

- ①朝食を毎日摂っている児童・生徒の割合 小5 80.2%・中2 76.6%→90.0%
- ②メタボ予防・改善を実践・継続している市民の割合 30.5%→40.0%
- ③郷土料理を家庭で「よく作る」保護者の割合 17.9%→30.0%
- ④食品ロス削減を意識して実践している市民の割合（新規）→80.0%

## 4. 基本理念

### 「南陽の恵みを味わい、食でつながる健やかな未来」

市民一人ひとりが南陽産の食材を楽しみ、食を通じて地域との絆を深め、心身ともに健康で持続可能な社会を創造することを目指します。

## 5. 計画の体系(基本目標と推進項目)

### 基本目標1 食育の推進

- ①規則正しい食生活と健康づくりの推進 :朝食摂取の啓発、減塩・野菜摂取の推進
- ②共に食べる「共食」と地域交流の活性化 :子ども食堂への支援、食を通じた多世代交流
- ③南陽の食文化・郷土料理の次世代への継承 :現代風レシピの提案、デジタルアーカイブの活用
- ④食農体験を通じた「食」への感謝の醸成 :収穫体験や調理実習を通じた食農体験の提供
- ⑤持続可能な食を支える環境配慮と食品ロス削減 :エシカル消費の推進、3010 運動の普及
- ⑥食の安全・安心に関する知識の普及と情報発信 :正しい知識の普及、SNS等を活用したタイムリーな発信

### 基本目標2 地産地消の推進

- ①学校給食や公共施設等での市内産物の利用拡大 :給食への地場産物導入、有機米給食の提供
- ②直売所・市内飲食店を拠点とした消費拡大の支援 :店舗情報の集約、拠点施設の機能強化支援
- ③南陽ブランドの確立と情報発信の強化 :新たな拠点を活用したPR、ブランド価値の向上
- ④6次産業化の推進と多様な主体の参画 :新商品開発の支援、女性団体等との連携
- ⑤環境保全型農業の推進と理解の醸成 :気候変動対策の強化、みどりの食料システム戦略の推進
- ⑥生産者と消費者の相互理解と信頼の構築 :スマート農業の情報発信、農業祭等の交流事業

- ⑤農業産出額(合計) 93.2 億円→100 億円
- ⑥学校給食における地産地消ウィーク期間中の県産食材の使用割合(金額ベース) 44.7%→75.0%
- ⑦地域資源活用に取り組む事業者の数 1→2
- ⑧地域資源活用に取り組む事業の売上げ 0円→2億円